目下支那本部内は、到る處多少の耶蘇信者ありと雖も、千有餘年來、新疆人の頭腦に宿れる回教と喇嘛教との信念堅固なるが爲め、基督教宣教師は、如何に手段を盡すも、遂に之が領分を蠶食するの餘地なく、匆々引揚げて、目下は基督教の隻影だも見るべからざる狀態なり。

儒教

滿人、漢人は、支那內地と同じく、從來儒教を信奉し、孔孟の仁義道德は、聊か彼等の頭腦を支配して、向後と雖も亦拔くべからざるの勢あり。

道教

儒教と共に諸種の道教なるもの有り。從て近來漢人間には、道教の一種、在理教と稱するもの流行し來りて、多數の人漸次之れに歸服せんとし、就中天津商の大部は、最も堅き奉教者とす。蓋し該商人の活氣あるは、全く之が爲めなれば、左に少しく、該教の由來及其の主義とする所を記さん。

在理教

在理教の起原は、遠く清の初代に在りて、其開祖を揚萊茹と云ふ。渠は明の萬曆年間(千五百七十年代)の進士にして、山東省萊州府即ち墨縣蕭何村の人、明亡ぶるの後ち勞山の程揚旺に就て道(龍門派)を學び三年にして大に悟得する所あり。去て道を(老子を教祖とす)燕、齊の間に宣傳し、大弟子八人を得て、遂に茲に在理教なる一派を立てたり。